

弘前市民対象「いきいき健診」スタート

2500人10年間追跡調査

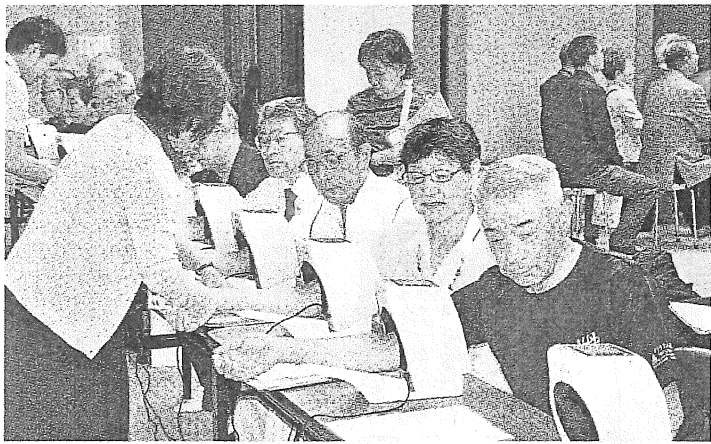
データ健康づくりへ還元

弘前大学と弘前市が、65～80歳の市民を対象に全身の健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」が7日、中央公民館岩木館などを会場にスタートした。認知機能をはじめ、血液検査や身体機能など約20ブースでの調査を通して150項目近い詳細な分析を行い、住民の健康づくり

につなげる。

長年にわたり岩木地区住民の健康調査を行ってきた実績を持つ弘大など8大学が拠点となり、認知症の危険因子や予防方法を探るため全国の1万人を対象に行う大規模調査の一環。弘前市では、来年度実施分と合わせ約2500人を隔年で調査する予定で、今年度は

13日まで13355人を対象に行う。全拠点で共通して調べる認知機能検査などに加え、弘前市の健診では独自に骨密度や歯科口腔検査などを合わせて行い、健康全般についてのデータを集めて市民に還元する。



10年間の健康追跡調査「いきいき健診」が弘前市で始まった

初日は169人が対象で、認知機能検査では時間や季節の認識や計算、図形の模写などを行い、このほか運動器の衰えにより要介護状態になるリスクが高くなる「ロコモティブシンドローム」に関する身体機能検査や、生活習慣に関する

たら」と期待した。

弘前大学院医学研究科社会医学講座の中路重之教授は「認知症だけでなく、体力、内科と3本立てで体全体を診る健診。ぜひ成功させ、『元気で長生き』につなげたい」と力を込めた。(西尾瑛)

詳細な問診などを行った。

参加した山島廣光さん(65)は「マシンで毎月300歩走るなど日ごろから体には気を付けてはいるが、今の状態を知り、これからの健康づくりに生かせ